

## 実況中継

千葉県船橋市・健伸幼稚園「お絵かき遠足」

## 自分で選んだ浅草を描く

国際交流や人力車の体験も



まずはここで記念撮影。引率の先生は右から青山三重子、畠山千明、高橋優子の三人。



京成線と都営地下鉄線を乗り継いで浅草に向かう。



仲見世散策。「おい刀だよ!」「うえ、ホントだ」「怖いね」「オモチャよ」「……」。

## 下町好む渋い趣味の子どもたち

健伸幼稚園(柴田<sup>あきお</sup> 昭夫理事長、柴田<sup>きぬこ</sup> 衣子園長)では、卒園間近な年長さんの締めくくり活動のひとつに「お絵かき遠足」がある。いわゆる写生遠足である。ほかでもよく見かける事例だが、行き先を子ども達が自由に選べるとなるとあまり例がない。

選択肢は四つ。50音順に並べると①浅草、②上野動物園、③銀座4丁目、④東京タワー。この中からクラスの枠に関係なく、行きたいところ(描きたいところ)を自分で選ぶのである。結果は、一番人気が45人の東京タワー、次いで上野動物園、銀座と続き、一番少ない19人の応募が浅草だった。しかし、この下町を好む渋い趣味の子ども達に興味を引かれ同行することにした。(実際には先に行われた他の遠足を風邪で欠席した子も加わり計21人となった)

ちなみに同園では、ふつうの遠足、秋のお泊まり会、クリスマス音楽会などでも、行き先、活動内容、演目などで自分の参加するコースやグループを選択できる。それどころか、朝幼稚園に着いて、それぞれの先生が張り出した“本日の遊びメニュー”を見て、「今日は〇〇先生のところで遊ぼう」と選べるのである。だから選ぶことには子どもも親も慣れている。

浅草グループの引率責任者は松星組担任の高橋優子先生。しかし松星組からの参加は2人だけ。「ちょっと寂しい気もしますが、健伸幼稚園では当たり前のことなので全然気になりません」とのことだ。引率はほかに、夫が浅草育ちなので浅草事情に詳しい青山三重子教頭、お絵かき道具の運搬助っ人で年少組から応援にきた新人



「もうすぐ小学生だ。頭が良くなるように」と線香の煙を頭にかける。



浅草寺がよく見えるここでお弁当。



お弁当が珍しいらしく、中国、台湾、メキシコ、フランスなど大勢の外国人が集まってきた。



お弁当会場の脇に立っていたご神木は、1945年の東京大空襲で焼かれながらも何とか生き残った樹齢約800年の公孫樹(いちよう)。毎年、浅草に来る同園の子を見ている。

の畠山千明先生、それにビデオカメラマンの亀屋孝則氏である。

浅草行きは2008年2月12日(火)に予定されていたが、この日は登園した頃から雨が降り出し、翌日に延期になった。翌13日(水)は晴れたが風の強い寒い日だった。でも寒さなんて関係ない。幼稚園から園バスで東中山駅まで送ってもらった一行は、10時43分の快速電車に乗り、高砂で都営地下鉄に乗り換えて11時05分に浅草に着いた。所要時間わずか22分。船橋から浅草は意外に近い。

### お弁当に外国人が興味津々

交番のお巡りさんに「よろしくお願ひします」と挨拶した一行は、まずは雷門の前で記念撮影。仲見世をぶらぶら歩いて線香の煙を浴び、手を清めて浅草寺本堂に上がり、先生の投げたお賽銭に合わせて手を合わせた。みんなを代表して引いた畠山先生のおみくじは大吉。めでたしめでたしである。

「あ、これ、おじいちゃんが言っていた大わらじだ」「あれがおばあちゃんが言っていた煙だ」という声が聞こえてくる。どうやら浅草を選んだのは、祖父母からの影響によるところが大きいらしい。

と、ここまではふつうの浅草参詣風景と同じだが、ここからがだいぶ違ってくる。

11時50分、一行は浅草寺本堂の脇に立つご神木の前でシートを広げお弁当を食べ始めた。風や寒さがひどいときは、松屋デパートを利用させてもらう段取りにもなっていたが、「このくらいなら大丈夫」と青空昼食会を決断した。

傍らのご神木は源頼朝が挿した枝から発芽した樹齢800余年の公孫樹(いちよう)。1945年3月の東京大空襲で焼かれたが、大やけどを負いながらも命を永らえた。そんな木の根元で子ども達がお弁当を食べる姿は、満身創痍の老木にエネルギーを与えているようにも見えた。

気がつくとも子ども達の周りに人垣ができた。食べる様子、お弁当の中身をじっと見つめ、時々指さしながら何やら言い合っている。皆外国人である。添乗員のつかない自由時間らしく、